

広島支部夏季講習会報告

(2013年8月発信)

暑い、暑い夏、みなさんいかがお過ごしですか？しっかり食べて、大好きな音楽とともに元気に猛暑を乗り切りましょう。実は今年だけ、ここ比治山大学の5号館建物1Fは、付属幼稚園の仮園舎。子どもたちが水遊びをしている楽しそうな歓声がこの部屋まで聞こえてきます。「いいなー、いっしょにプールに入れて欲しい・・・」。でも、子どもたちのはしゃぎ声と水しぶきの音だけでもいやされません。

さて、広島支部では7月25日（木）に、恒例になりましたダルクローズ・リトミック講習会を広島市中区アステールプラザ多目的スタジオで行いました。今年で58回目、おかげさまで歴史と伝統を感じています。講師は午前の部が石井亨先生。午後の部が坂本真理子先生。暑い中にもかかわらず、50名近くの方が熱心に参加していただき、楽しく有意義な音楽学習のひとつとなりました。



広島支部会員で比治山大学附属幼稚園にお勤めの石原優衣先生が講習会での学びをまとめてくださいました。充実した学習の様子が手に取るように伝わってきます。

【石井先生から学んだこと】

「今回、『準備』ということに重点を置き研修会が進んでいった。手をたたく、ピアノを弾く、歌を歌う…どのような時にも『準備』が不十分では、音楽の良さが出ない、と。日々の生活においても、私たちが準備をしないことはない。無意識でも、歩くため、話すため、食べるため…どのような場面でも『準備』はしている。

言葉にも意味があるように、音の高さや幅、強さ、出したい音色など、音と音の関係を考えていれば『生きた音』になる。それが『音楽』の『準備』。ただ音を鳴らすだけでは『音楽』にならないことを学び、「果たして、どれだけの『生きた音』を奏でられているのだろうか」と、自分の音に触れる時の姿勢を振り返る機会にもなった。

子どもたちと歌を歌う時や、表現遊びをする時など、『音楽』の『準備』をしつつ、私自身が音楽の楽しさを感じながら、子どもたちの『感じる心』に寄り添っていきたいと思う」



【坂本先生から学んだこと】

「リトミックは身体で感じることから始まる。身体を動かし違いを感じる事が大切」この言葉から始まった研修。音楽に合わせて、ゆったりとストレッチをしたり、いろいろな人と触れ合いながら踊ったり、宇宙の探検に出かけたり…生き生きとした先生の姿に、緊張がほぐれていった。先生のピアノを聴きながら動きを変える私たち、何も言われてないのに、何となく動きが揃うことが、楽しくもあり、不思議でもあり、リトミックの良さはこういったところなのだろうと思う。

研修会の後半、ダルクローズの論文集での一節が紹介された。『何度繰り返しても言い過ぎでないことは、子どもが心で音楽を感じとり、楽しんで受け入れ、音楽と心と体がひとつになる。幼児は何の努力もいらない。ただ、最も自然な方法を用いて体験させてほしい』日々の生活で、五感を研ぎ澄ませ過ごしている子どもたち、その子どもたちが感じていることを自然なかたちで取り入れていくことの重要性を再確認した。これからも、自分自身、生活の中で様々なことを感じる力を養っていきたいと思う。



秋には本年度 2 回目の支部例会を行います。本年度は、参加者が多く活気づいています。どうぞ、気軽に楽しくリトミックを体験してみませんか。お待ちしております。